

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">文化人類学 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文 2 回生 文学部英米 2 回生 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">坪井 恒彦</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">考古学・民俗学の成果を援用し人類（日本人）の文化の祖型を考える</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>20 世紀のアメリカで構築された「文化人類学」の理論・方法論は、日本地域にはそのまま当てはめられない側面を持っています。本講座では、文化人類学の目的を堅持しつつ、理論・方法論に日本の考古学・民俗学の考え方を取り入れ、「人間とは何か」を、彼らが創り出した文化、そして文明を通して追究していきたいと思えます。そこには、私たちを取り巻く現代社会が抱える様々な課題を解きほぐす手がかりが隠されており、将来を見通す「眼」を養うヒントがあるのではないのでしょうか。</p>		
<p>評価方法</p> <p>学期末テストの成績、および途中のレポートの内容により評価します。出席状況も重視します。</p>		
<p>テキスト</p> <p>自作のレジュメ集、資料のコピーを配布します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>『文化人類学』</p>	<p>編著者</p> <p>村武精一ほか</p>	<p>出版社</p> <p>有斐閣</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「文化人類学」とは</li> <li>2. 文化人類学の歴史</li> <li>3. 「文化の変動」について</li> <li>4. 「日本文化」の特性を考える</li> <li>5. 日本民族の起源を追う</li> <li>6. 狩猟採集社会の実像</li> <li>7. 「土器誕生」の周辺</li> <li>8. 「縄文農耕」の実態</li> <li>9. 「定住集落出現」の意味</li> <li>10. 「配石遺構と土偶」の文化</li> <li>11. 縄文祭祀における仮面文化</li> <li>12. 縄文巨木文化の背景</li> <li>13. 縄文時代の流通・交易の文化</li> <li>14. 縄文人の精神文化再考</li> <li>15. 「日本語」の形成と普及</li> </ol>		